

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」神戸大学 ～先端研究・文理融合研究の推進～

平成25年度配分予定額：200百万円

目標： 本事業では、URA機能の強化と活用(方針1)、学術研究推進体制の機能強化(方針2)により、本学の研究力を飛躍的に向上させ、世界ランキング200位以内を目指す。

## 先端研究・文理融合研究の推進

—研究力強化実現のための取組—

目標:世界ランキング200位以内

フラッグシップ・プロジェクトの強化・推進

社会科学系  
教育研究府

統合研究拠点  
拡張計画  
推進中

自然科学系  
先端融合研究環

学術研究推進体制の機能強化

個人及び研究科の研究力強化

・神戸大学版  
テニュアトラックの  
推進等

研究者の  
人材登用

国際展開

産学連携の  
強化・推進

研究支援  
体制強化

URA機能の強化と活用

・研究設備サポートセンター  
・研究支援推進員  
・リサーチ・アシスタント(RA)

方針2: 学術研究推進体制の機能強化により、「社会学系教育研究府」、「統合研究拠点」、「自然科学系先端融合研究環」において、本学を代表するフラッグシップ・プロジェクトを強化・推進するとともに、これらの組織の連携を通じて、先端研究・文理融合研究を展開する。

方針1: URA機能の強化と活用により、

- ・優秀な研究者の人材登用
- ・国際展開(海外との連携強化、国際共同研究の実施、国際共著論文数の増加)
- ・産学連携の強化・推進(研究ニーズ収集、研究成果発信等)
- ・研究支援体制強化(研究設備、研究支援人材等の増強)

を図り、個人及び研究科の研究力を強化する。

# 研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析、研究力強化方針

## 強み

### ○体制の整備

- ・学長の下、研究推進のためのガバナンス体制
- ・先端研究・文理融合研究等の組織体制
- ・国際学術交流の推進体制

### ○状況分析結果

- ・文系・理系の各分野でのバランスの良い研究が進展
- 理系分野での強い分野(自然科学系、生命・医学系)
- ・書誌データベース上、特に物理学分野、臨床医学分野、基礎生命科学分野が強い
- 文系分野での強い分野(社会科学系)
- ・科研費の採択件数では経済学、経営学、法学、政治学分野が強く、若手研究(A, B)での採択率、日本学術振興会特別研究員受入人数も増加

## 弱み

### ○体制の整備不足

- ・若手研究者養成の支援制度が不十分
- ・産官学連携活動を担う専門的人材、研究・技術支援員等

### ○状況分析結果

- ・論文引用数、相対被引用インパクト、論文総数が11位
- ・科研費獲得ランキングが10～11位(平成22～24年度)

## 研究力強化方針

### ○先端研究・文理融合研究の強化

- ・統合研究拠点を拡張
- ・研究成果を世界に発信

### ○海外の有力な大学・研究機関との連携強化

- ・国際学術交流における学術研究推進
- ・若手研究者長期海外派遣制度の継続
- ・国際共著論文数の増加

### ○研究人材の多様性の確保

- ・若手研究者、女性研究者、外国人研究者の積極的な採用(テニュアトラック制度の充実)
- ・外国人留学生の受入れの増加

### ○研究者が研究に専念できる環境整備

- ・研究設備サポートセンターの設置
- ・研究支援推進員の新たな配置
- ・リサーチ・アシスタントの拡充

### ○URA組織体制の強化(Aメニュー)

- ・学術研究URAの活用
- ・産学連携URAの活用

# 研究力強化方針に基づき取り組む制度改革等

## 戦略的人材の配置

人事労務制度の改革  
(特命職員制度強化)

学長裁量枠定員の  
新たな確保

教授人事における  
ガバナンスの強化

学長の  
リーダーシップ

## 多様な人材の確保 (平成34年度目標)

若手

総教員数の  
30%に!

女性

採用比率を  
30%に!

外国人

総教員数の  
5%に!

## 国際展開力の強化

若手研究者の  
長期海外派遣

国際公募

海外有力大学・  
研究機関との連携

同窓会組織の  
戦略的立ち上げ



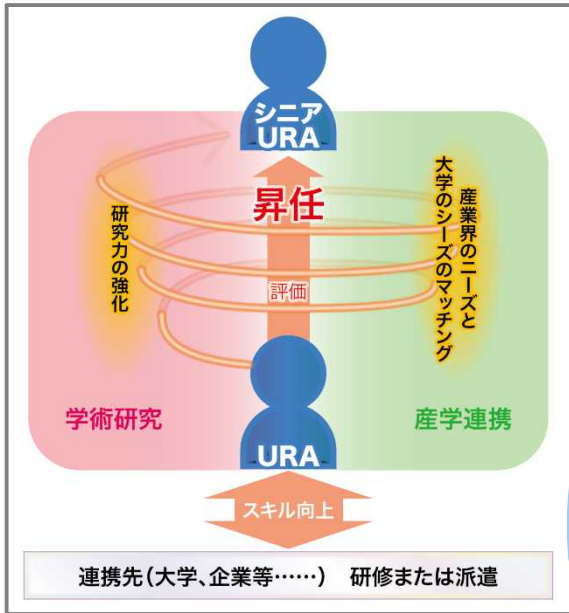
## 大学院教育の改革

英語研究指導の  
拡充

留学生の増加  
(1,500人に!)

学際大学院教育  
の推進

# URAの確保・活用の取組



学術研究URAと産学連携URAは、それぞれの業務での専門性を高めつつ、中長期的に互いの業務を行き来することにより、幅広い視野と能力を身につけるようにする。

キャリアパス及び職務環境整備等を明示し、公募を通じて優秀な**人材を確保**

URA会議を設置し、全学課題・個別課題の解決に向けた戦略策定、研究水準の向上・評価、研究活動支援及び環境整備、外部資金獲得支援等において**URAを活用**

